

御 境 内

周囲約 1,000m 面積 13,479 坪 全島青島神社所有地

AOSHIMA ISLAND

This island, about one and half kilometers in circumference, is connected to the main island by a bridge. It is located just offshore in Hyuganada, or the "Sea of Hyuga." *(Ao means "green" or "blue" shima means "island.")

特別天然記念物

亜熱帯性植物群落

昭和 27 年 3 月 29 日国指定

陸地に近い島で本土にくらべて特異な植物が繁茂した北半球最北の貴重な群落である。自生植物は 197 種で熱帯及び亜熱帯性植物 27 種を算し、その代表的な植物びろう(ヤシ科)の成木は約 5,000 本であるびろうの純林は群落地の 6 分の 1 を占め、高樹令 350 年を越える。来歴は古来の遺存と推定される。

天然記念物

りゅうつきがいししょう きげいはしよくこん

青島の隆起海床と奇型波蝕痕

昭和 9 年 5 月 1 日国指定

周辺の岩盤は、新第三紀(二千四百万年前から二百万年前迄)海床に堆積した砂岩と泥岩の規則的互層が傾斜(走向北三十度東、傾斜二十度東)海上に露出し、波浪の浸食を受け、堅さの違いにより凹凸を生じたものである。岩上にはひびや断層が多く団塊や浸蝕による蜂窩(ほうこう)が見られる。

PLANTS and ROCKS

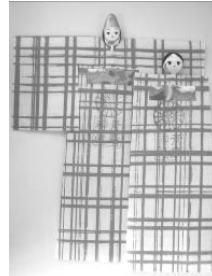
About 27kinds of tropical and subtropical plants and 197kinds of nontropical plants all native to Aoshima flourish on this island.

Aoshima is surrounded by wash-board rocks. These rocks are called "Oni-no-sentaku-ita," or "the Giants Wash-board."

Both the plants and the rocks have been recognized by the Japanese government as being of great natural interest.

御守「神ひな」

古くは安永年間の記録にも、神ひなのことが載っていて、今日でも別名「夫婦ひな」又は「願かけひな」といい、縁結、安産、病氣平癒、家内安全、海上・陸上交通安全はもとより、あらゆる願いを此の神ひなに掛けて御神前にお供えする。青島神社神ひなはその形式も・古く、願掛の古習も良く伝えていて、特殊な御守として有名なばかりでなく、郷土色豊かな信仰上の芸術作品である。



*NO-theater 能 国栖(くず)

能 楽 殿

日本の伝統文化の神髄を觀賞し、その理解と保存の立場から、中学・高校生をはじめ、一般青少年や県内外多くの方々を対象に、能楽を定期的に公演し、古典の理解と研鑽にいささかなりとも貢献させていただけると考え、昭和 54 年 2 月、南九州唯一の古典芸能の殿堂として完成いたしました。

ホームページ <http://www9.ocn.ne.jp/~aoshima/>

青島神社社務所

AOSHIMA SHRINE
2-13-1 AOSHIMA

〒889-2162
宮崎市青島 2 丁目 13 番 1 号

MIYAZAKI-CITY
JAPAN 〒889-2162
PHONE

電話 0985-65-1262

Office 65-1262

FAX 0985-65-1778

青島神社能楽殿 宮崎市青島 2 丁目 6 番 33 号

電話 0985-65-2051



AOSHIMA JINJA
(Aoshima Shinto Shrine)

青島神社



(Aoshima Shinto Shrine)



御 祭 神

彦火火出見命
豊玉姫命
塩筒大神

Hikohodemi no Mikoto

Toyo tamahime no Mikoto

Shio tsutsu no Ookami

御祭神系譜

天照大神 - 天忍穗耳命 瓊々杵命
彦火火出見命 (青島神社御祭神)
鸕鷀草薙不合命 (鶴戸神宮御祭神)
神武天皇 (宮崎神宮御祭神)

御 由 緒

てんそんにぎのみこと み こひこほ ほ でのみこと わだつみのみや ご
天孫瓊々杵命の皇子彦火火出見命が、海積宮から御
かんこう さい お みやい あと ごしんい
還幸の際の御宮居の跡として三神を奉祀し御神威を

今日に伝えている。奉祀の年代は明らかでないが、
ごくし じゅんしき ひゅうがみやげ さがでんのう ぎよ
国司巡視記「日向土産」（平安朝）に「嵯峨天皇の御
うあめまつるおしほほ、ゆようじん
宇奉崇青島大神」と記されてあったといわれ（約
千百九十九年前）、文亀（室町時代・約五百年前）
以降は、藩主伊東家の崇敬厚く、社殿の改築、境内
の保全に力を尽し、明治以後は御祭神の御威霊を仰
ぎ熱帯植物繁茂する国内絶無の霊域をたずねる人々
いよいよ多く、縁結・安産・航海・交通安全の神と
して、御神威は益々輝き今日に至っている。

(何年前というのは平成21年より起算)

Aoshima Shinto Shrine is dedicated to
Hikohohodemi no Mikoto (or*Yamasachi Hiko),
to Toyo tamahime no Mikoto, and to Shio tsutsu
no Ookami.* (Yamasachi means “mountain products”
Hiko means “man.”)

The origin of Aoshima Shrine is unknown
but there is a record that people revered the
shrine as early as the Heian Era in the ninth-
century A.D.

Aoshima shrine is supposed to give a divine
blessing, especially to those who want to be
married.

春 祭

旧暦 3月 16日に古来の慣例に随い『島開き祭』を執行する。
往古は他領人の入島を許さず此の『島開祭』から月末『島止祭』
(島成就ともいう)まで一般の参島を許していた古例による。
常には神職の外は島奉行と云って土器席の役人のみ入島し島
奉行は島内及び磯辺を監守せしめられた。然し元文二年(17
37年)当時の宮司長友肥後が信仰上これを遺憾に思い禁を解
かれる事を藩主に訴願、同年5月23日許可されてからは諸國
の信徒が自由に参拝し得るようになった。渡島を禁止されて
いた時は尖浜に拝所を設けて遥拝させたものである。



* Sea Crossing festival 海を渡る祭禮

夏 祭 (御神幸祭)海を渡る祭禮

旧暦 6月 17・18日の両日行われる。17日早旦に出御祭を執行し、
祭典後神輿の渡御があり、対岸折生迫を巡幸、白浜から漁船に神
輿を乗せ島を一廻りして尖浜(青島海水浴場)に上陸休憩後又船で
島を廻って折生迫漁港に着き、御仮泊所に入れ、翌18日還幸さ
れる。神輿の渡御は古くから行われていたが、海上渡御は昭和23
年初めて行われた。御祭神の古事を偲び、海積宮に御祭神を御連
れ中上げ、御神慮を慰めたいとの氏子漁民の発意でこの行事が行
われるようになり、満船飾をした漁船数十艘が御座船を先頭に列
をなして進む状は偉観を呈し遠近よりの奉拝者が尖浜に溢れ、青
島神社祭礼での最も賑やかな祭となった。

FESTIVAL

* Sea Crossing festival

This annual summer festival of Aoshima shrine is
held on June 17th, and 18th, according to the
lunar calendar. On June 17th, boats carry the
“Mikoshi,” or “portable shrines,” in a parade accom-
panied by many fishing boats decked with “Tairyo
Bata” flags that traditionally indicate a big catch.

The festival reaches its climax after the 2-hour
sea parade when young people clad in “happi” or
“happy coats,” rush into the sea to take the portable
shrines off the boats and carry them back to the
land. It is a highly spirited and energetic festival
with many prayers offered for abundant crops and good
fishing.

秋 祭 (例祭)

10月18日に執行され氏子は近隣の親類縁者を招いて饗応し、
神徳を称え、相互の縁を深めた。現在でも当日は、同年講と
いって男女同じ年の者が酒宴を張り、幼児をしのび語り合う
日である。



* Winter festival 裸まいり

冬 祭 (裸まいり)

旧暦 12月 17日に裸参りが行われる。当夜参拝すれば、千
日に易うと伝えられている。(現在は成人の日に行われる)
この日は夜半から起きた近隣近在の若い男女が夜を徹して、
真裸で神社に参拝するもので、昔はその沿道から神社境内ま
で、これらの男女と参拝者で雑踏していた。近時は寒風をつ
き、氏子青年や一部の信者が、社前の海水に浴して静かに祈
願するような形に変わってきている。
この風習は大昔、彦火火出見命が、にわかには海神国から帰国さ
れた際、村の人々は衣類をまとう暇もなく、赤裸の姿で取り
急ぎお迎えしたという故事から起こったもので、相当古くから
行われている。

* Winter festival

An interesting festival is held here in January.
It is said that when Yamasachi suddenly returned
from the Dragon Palace in the Sea Country,
delighted, naked people met him in the sea.
On the day of the festival December 17th,
according to the lunar calendar, people go into
the sea naked inspite of the cold.